

ゴイシツバメシジミの郷を守る会 会報

ゴイシツバメシジミの郷



ゴイシツバメシジミが生息している古木。シシンランが多数着生している。

ゴイシツバメシジミの郷を守る会 事務局
〒868-0701

熊本県球磨郡水上村岩野2678 岩野公民館内
電話：0966-44-0333 F A X：0966-44-0329

今回は、会員の小松孝寛さんに「水上村の蝶」について執筆いただきました。小松さんは、これまでも自著を多数出版しておられます。宮崎県在住にもかかわらず、総会等、会の活動には積極的に参加していただき、水上村の昆虫につきましても数多くの知見をお持ちです。今後も会の中心メンバーの1人として活動をお願いしたいと思っております。

水上村でゴイシツバメシジミ以外の気になるチョウ

ゴイシツバメシジミの郷を守る会 小松 孝寛

水上村のチョウと言えばゴイシツバメシジミですが、それ以外にも気になるチョウがいます。まず、オオムラサキです。これは野田さんが詳しく説明されているので、詳細は省きますが、水上村のオオムラサキは日本の南限付近にあたり、紫色に白色が目立つ大きな個体が多いです。オオムラサキ以外でも、本州以北では普通に見られるが、九州では数が少なく、日本の南限付近というチョウが幾つかいます。例えば、スギタニルリシジミは九州亜種として本州のものとは別亜種になっています。

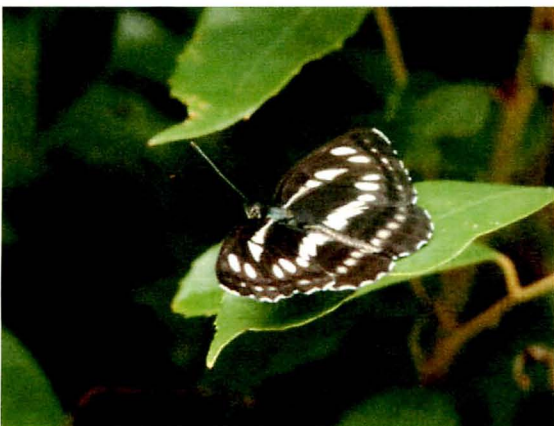


スギタニルリシジミ（本州・四国亜種）

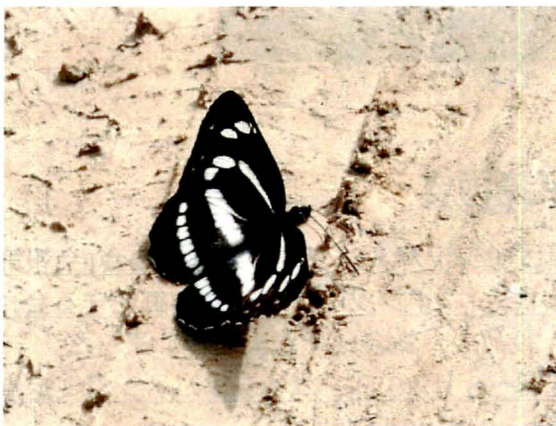


スギタニルリシジミ（九州亜種）

別亜種とはいかないまでも水上村に棲むチョウの中には日本南限付近のものがいます。タテハチョウの仲間に黒褐色の羽に白い筋が三本あるチョウがいます。水上村でよく見かけるのはコムスジですが、5月下旬～7月上旬にコムスジより少し大きいミスジチョウが現れます。ミスジチョウは日本全国に分布しており、北海道や東北では個体数が多いです。しかし、九州では標高の比較的高い溪流沿いにしか棲んでいません。そのミスジチョウを、市房観光ホテルに宿泊したときに、♀が庭のモミジに産卵しているのを目撃しました。榎谷付近では道端で吸水している個体もいました。九州のミスジチョウは他の地域のものより少し大きくて立派です。ゴイシツバメシジミを探すついでに見つけてください。



コムスジ（2014.7.4 市房山キャンプ場）



ミスジチョウ（2016.5.22 市房山キャンプ場）

ミドリヒョウモン、ウラギンヒョウモンやクモガタヒョウモンなど大型ヒョウモンチョウの仲間も日本の里山のチョウで、アザミなどの花で吸蜜している姿を見かけます。水上村はこれら大型ヒョウモンチョウの日本

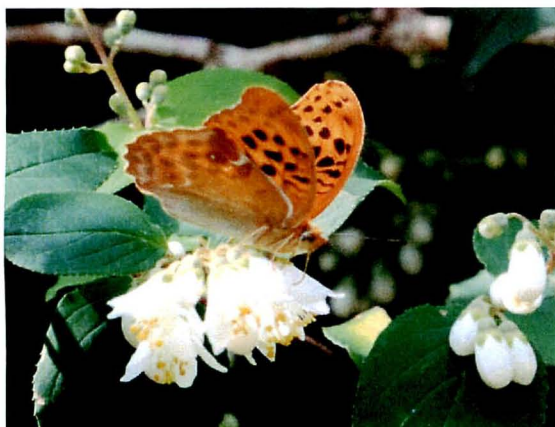
の南限付近にあたっています。ところが、大型ヒョウモンチョウの世界では最近困ったことが起きています。ツマグロヒョウモンという見た目には綺麗なヒョウモンチョウが勢力を伸ばしてきて、他の大型ヒョウモンチョウを駆逐しているからです。ツマグロヒョウモン以外の大型ヒョウモンチョウは春に羽化した成虫が暑い夏を休眠して過ごした後、秋に卵を産み、卵か幼虫で越冬した後、春に次の成虫が現れるという、年一化のライフサイクルを持っています。一方、ツマグロヒョウモンは南方系のヒョウモンチョウなので、寒くなければ何回でも交尾・産卵し、年に4~5回羽化する多化性です。更に、幼虫は他の大型ヒョウモンが食べない栽培種のパンジーなども食べますので、益々数が増えています。ツマグロヒョウモンは他の大型ヒョウモンチョウの食草であるツボスミレなども食べます。ツマグロヒョウモンが増えれば、他の大型ヒョウモンチョウの食草が少なくなり、数も少なくなります。年々気温が上昇してくるにつれ、ツマグロヒョウモンの勢力は増し、今では関東地方にまで分布を広げています。宮崎市周辺などでは見かけるヒョウモンチョウは殆どがツマグロヒョウモンチョウになってしまいました。そのような中、水上村ではまだ日本本来の大型ヒョウモンチョウを見ることができます。



ツマグロヒョウモン♂



ツマグロヒョウモン♀



クモガタヒョウモン (2014.7.4 市房山キャンプ場)

左の写真はゴイシツバメシジミが良くハルジオオンに吸蜜に来ている櫛谷付近に咲いていたウツギで吸蜜しているクモガタヒョウモンです。

このように水上村には日本の南限付近になっている里山のチョウたちが多いです。最近ではDNAによる地域個体群の扱いが主流となってきましたので、ゴイシツバメシジミ以外にも、このようなチョウに関心を持っていきたいものです。

2016年度の活動内容

2016年 6月：「ゴイシツバメシジミの郷を守る会」会報第4号 発行・送付

2016年 5月22日：「ゴイシツバメシジミの郷を守る会」第4回総会@市房観光ホテル
・午後6時より、役員会、総会、懇親会を行いました。

2016年 6月19日~8月26日：ゴイシツバメシジミ定点観測

・2016年の初見は、6月28日でした。

・確認できた個体数は、昨年度同様、例年に比べ非常に少ないという結果に終わりました。はっきりした原因はわかりませんが、会としては、引き続き調査を継続いたします。

2016年 8月2日：ゴイシツバメシジミ観察会 @キャンプ場周辺

・会からは西会長が観察会講師として、村内外の参加者 21 人にゴイシツバメシジミについて様々な角度から説明を行いました。観察会では残念ながらゴイシツバメシジミを観察することはできませんでした。

2017年2月8日：九州中央山地希少野生生物保護管理対策調査業務検討会

・昨年引き続き、人吉の九州森林管理局でゴイシツバメシジミの保護について、関係者が集まり会議が行われました。今回は、ゴイシツバメシジミの観察数減少についての意見交換が行われました。以前から指摘されていることではありますが、ゴイシツバメシジミの保護増殖施設の設置を真剣に検討する必要があると思われます。当会からの出席者は、顧問の三枝先生、杉本氏、中原氏、および西会長、担当の岩崎が出席しました。

会員構成（2017年5月31日現在）

- ・個人正会員：18名
- ・個人賛助会員：15名
- ・法人会員：1団体
- ・顧問：2名
- ・事務局：1名（水上村教育委員会教育課内）

お知らせ

2017年 ゴイシツバメシジミ観察会

当会主催の「ゴイシツバメシジミ観察会」が昨年に引き続き開催されます。昨年は残念ながらゴイシツバメシジミを見ることはできませんでしたが、今年はどうでしょうか？ 当会会員がゴイシツバメシジミの発生場所等を詳しく案内しますので、興味のある方は是非ご参加ください。参加ご希望の方は事前に事務局まで連絡をして頂き、当日は直接市房山キャンプ場までお越しください。

日時：7月30日（日） 10時～12時

場所：市房山キャンプ場（9時50分までに受け付けを終了してください）。

参加費：当会会員は無料。一般 500円。中学生以下 無料。



昨年の観察会の様子

「水の上の学校」への入会

来年度から当会は、水上村観光協会が推進しております「水の上の学校」という自然体験の会のメンバーに加わり活動を行うこととなりました。「水の上の学校」には、「山女釣り」「市房杉トレッキング」「カヌー」「星空観察」「山菜採り」「タケノコ掘り」「栗拾い」等々、さまざまなメニューがあり、水上村の観光の柱として、また、自然の素晴らしさを伝える組織として活動を行っております。当会としては、この「水の上の学校」とも協力することにより当会をより広く皆様に知っていただき、これまで以上に活発な活動をしていきたいと考えております。

尚、「水の上の学校」の詳細は、水上村観光協会HPをご覧ください。



水の上の学校の様子。左から、山女釣り、山菜、カヌーの学校。水上村観光協会HPより。

会員募集

個人正会員、個人賛助会員、法人会員を大募集しております。それぞれの年会費は以下の通りです。

- ・個人正会員：2,000円（会の趣旨に賛同される個人、かつ会の活動に参加可能な方）
- ・個人賛助会員：2,000円（会の趣旨に賛同される個人。但し会の活動に参加するのが困難な方）
- ・法人会員：5,000円（会の趣旨に賛同される法人）

会員登録された方には、毎年発行する広報とゴイシツバメシジミ観察会へのご案内等、保護活動に関する情報をお知らせ致します。申し込み希望の方は、事務局までお問い合わせ下さい。

広報原稿大募集

広報に記載する原稿を、会員の皆さまから募集しております。ゴイシツバメシジミに関わらず、環境保全や市房山に関する記事でしたら何でも構いませんので是非ご投稿下さい。

後記

・今号は、「水上村の蝶」についての雑感を小松さんにまとめてもらいました。その中の大型ヒョウモンの異変についての箇所は大変気になるお話でした。私も水上村で生活するようになって以来、昆虫を通してさまざまな異変を感じています。特に、多くの種類の昆虫が減っているのは間違いないと思います。原因は色々あると思いますが、地球温暖化も含め人の活動が大きく関わっている気がします。なかなか解決は難しい問題ですが、何らかの行動を起こさなければ状況は益々悪化するのではないかと危惧しています。

・今回、当会が所属することになりました「水の上の学校」は、さまざまな自然体験を提案する組織です。水上村の観光の柱として活動を行うとともに、自然体験を通して、自然に興味をもってもらい環境問題に対する何らかの行動をする人を増やしたいという意図もあります。当会も、ゴイシツバメシジミの保護活動を中心に、「水の上の学校」と連携しながら自然派を増やす活動を今後も続けていきたいと考えておりますので、どうかよろしくお願いいたします。

球磨版

球磨総局

あさぎり町免田東3156-2
電話 (0966)45-1110
FAX (0966)45-0399



販売取次所

- 川本商店 ☎44-0126
- 大米商店 ☎46-1010
- 須尾販売店 ☎43-3223
- 松尾販売店 ☎45-3468
- 蔵座販売店 ☎47-0203
- 平川販売店 ☎090-5483-4751
- 恒松販売店 ☎45-2024
- ニッぽねまっ ☎38-1003
- 松田酒店 ☎38-0035
- ニューつねまっ ☎37-2756
- 土屋販売店 ☎33-0021
- 岩崎理髪店 ☎24-4011
- 益徳 ☎23-4974
- 留酒

米 穂 耐

HAKUTAKE

白 穂

高橋酒造株式会社

人吉市台 / 原町498 TEL0966-24-5155

(ホームページアドレス) <http://www.hakutake.co.jp>

チョウとの出会い幻に

ゴイシツバメシジミ観察会

水市 上村の山

水上村内の市房山麓に生息する国指定天然記念物のチョウ「ゴイシツバメシジミ」の観察会が先月31日、市房山で開かれた。

昭和48年に日本で初めて市房山で発見されたゴイシツバメシジミ。国内では、水上村と山都町の内大臣峡の照葉樹林の原生林にしか生息していない。

同50年、天然記念物に指定、環境省のレッドリストでは「絶滅危惧Ⅰ類」という絶滅の危機にひんしている種に指定され、貴重で珍しいチョウ。

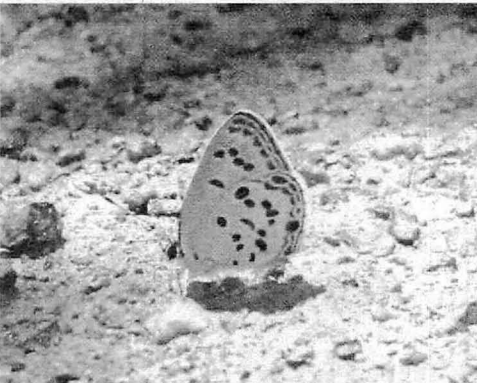
成虫の羽の裏には面白い裏。



目を凝らしてチョウを見つける参加者

その保護活動を通して自然の素晴らしさや重要性を発信する活動を展開する「ゴイシツバメシジミの郷を守る会(西和人会長)が主催。

観察会は4回目、熊本市など村内外から21人が参加した。ゴイシツバメシジミについて熱い思いを西



碁石のような模様が特長のゴイシツバメシジミ(ゴイシツバメシジミの郷を守る会撮影)

会長が講演している。同会の先発隊から「雄一頭を発見」と携帯電話に連絡があった。参加者は徒歩で約10分の発見場所に向かったが、到着のわずかな前に飛び去ってしまった。撮影された写真を確認した。その後も引き続き双眼鏡を使ったり目

を凝らして見つけるも幻のチョウだけあって時間内に見ることができなかった。小川一弥さん(74)「球磨村渡」は「本当に見なくては残念でした。写真を撮るまで通いたいと思います」と話していた。